

所属・資格 社会福祉学科・准教授

申請者氏名 鴨澤 小織

研究課題		女性の包括的な支援について研究：社会貢献活動としての非営利組織の新しい役割と課題
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>本研究の目的は、以前から社会の中で可視化されづらかった女性の生活困難者への支援体制について、コロナ禍で可視化された部分と、隠れてしまった部分をもう一度非営利組織の動きから見直し、さらに新しい動きについて現状を把握することとした。</p> <p>女性の抱える困難は多様で、複合的であり多くはニーズに合った公的支援を受けていない、そしてニーズにあった柔軟な支援を提供している組織の多くは非営利組織や女性団体であるが資金不足、運営の課題、高齢化や人材不足など多くの問題を抱えながらそれぞれの組織の努力で継続しているのが実態である。</p> <p>家族関係に関する問題、離婚、DV問題、介護、貧困など、ライフステージにそった包括的な社会的支援を重要と考え、メンタルヘルスの問題を抱える当事者の声をジェンダーの視点から質的に分析を試みる。コロナの影響で延期していたため、令和4年度は当事者へのインタビューを再開し、継続するとともに、支援者のインタビューを通して、支援を行うにあたっての組織の課題についても分析を行う。</p>
	研究の結果	<p>女性政策への政策提言やネットワーク作りをしている団体、女性の地位向上を目的に活動をしている団体、DV支援を専門にしている団体、妊娠にまつわる支援をしている団体、精神障害者の就労支援施設を運営している団体の、支援者や相談員、社会福祉士、精神保健福祉士から聞き取りを行った。それぞれの団体の目的や規模によって組織の抱える問題の違いが浮き彫りになった。小規模のNPOは組織運営の難しさ、特に運営資金獲得の難しさ、人材不足が深刻であり、公的資金を獲得している中規模以上の団体は、組織を維持するために労力をつかい、ニーズに合った支援ができていいのか懐疑的であった。さらに、新しく30～40歳代が中心の若い層の支援団体も発足しており、発信力、クラウドファンディングなどを使った資金調達力などに強く、今後の新しいタイプの支援組織の発展が非営利組織の社会での位置を変えるのではないかと考えている。令和5年度も継続して組織の創業者、ソーシャルワーカー、支援者の個別インタビューを通して、さらに深く分析をしていく予定である。</p>
	研究の考察・反省	<p>研究計画を立てた段階でお願いをしていたインタビューが延期となっていたが、令和4年度の終盤になって対面インタビューが可能になった。データが集まり始めたので、今後はデータをさらに集めながら、分析を進めて聞きたい。コロナの影響で研究は遅れているが、支援団体からのコロナ禍での女性の問題、組織の弱点や存在意義など、この3年間の困難な時期についての新たな情報について何うことができ、今後の分析に活かしていきたい。</p> <p>一方、海外の政策や非営利組織はどう支援をしているのかについては、渡航が難しく現場の声を聞くことは難しかった。インターネットによる資料を集め、動画を見るなどにとどまっているが、来年度に向けて準備段階として文献調査としてまとめる予定である。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>① 口頭発表 国際ジェンダー学会 「女性たちによる精神障害者支援の40年：ライフ・ヒストリー調査から」 2022/09/02（オンライン）</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>日本質的心理学会第19回大会 「海外で人格形成期を過ごした女性の心理的編成の過程に関する研究」 2022年10月30日（愛知大学）</p> <p>② 出版物 「「全世代型社会保障検討会議」に至る経緯とその課題」 社会学論叢 203 2022年7月 白川泰之・鴨澤小織 共著</p>	